

令和3年度 建築法規(居住政策論) 回答案

レポート 課題

【レポートの回答案】

【課題1】

1-1

【課題2】

2-1 ~ 2-4

課題の設定条件どおり法56条第2項を考慮しない場合

2-4 ~ 2-8 ※参考

課題設定条件とは異なりますが、法56条第2項を考慮する場合

【総評】

【課題1】

どうしても、集団規定と単体規定に注意が向きますが、どれだれ立派な法律の内容であっても、現実社会でそのことが確実に履行されなければ意味がないことを踏まえての課題です

【課題2】

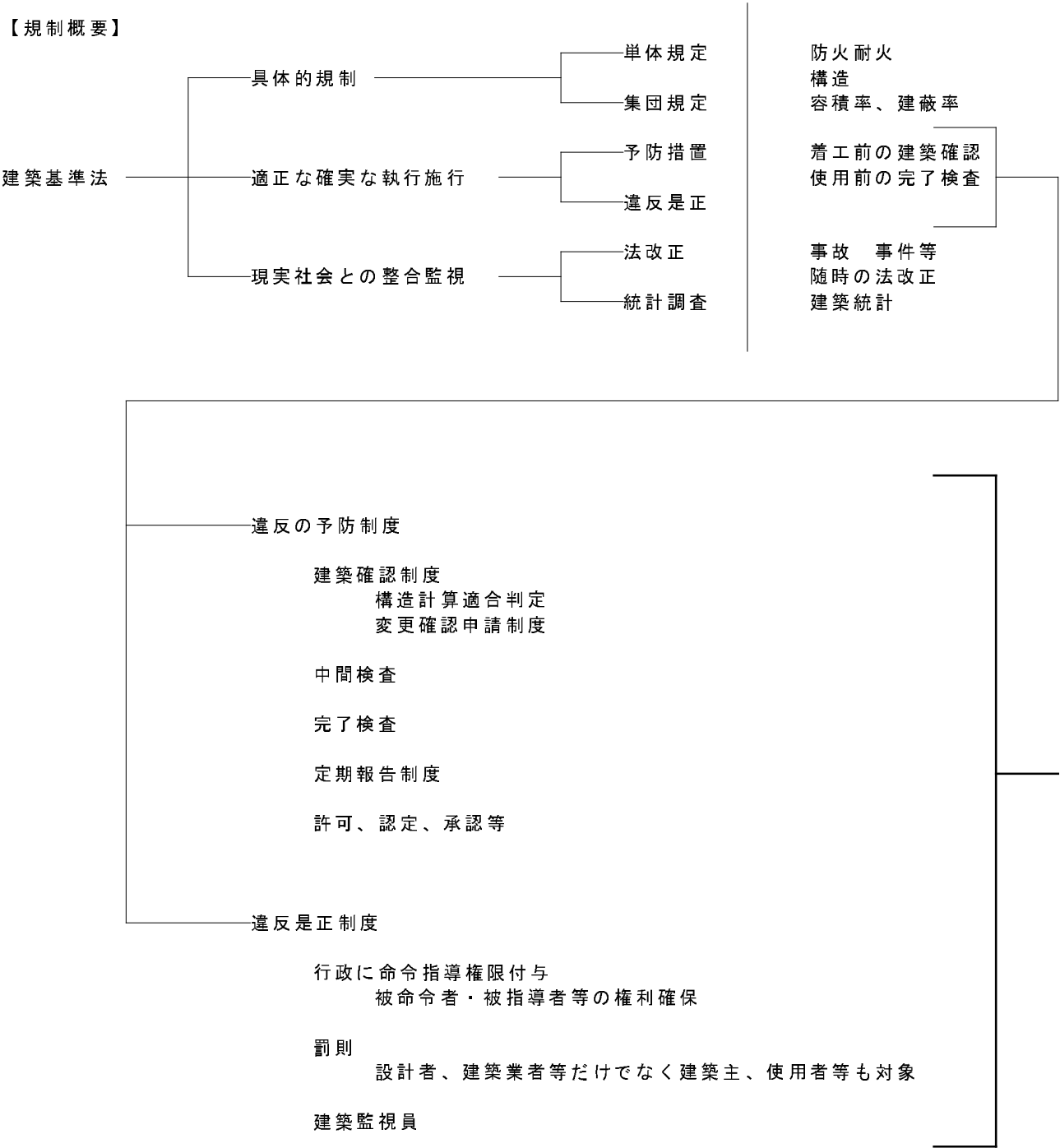
2方向道路敷地についての道路斜線制限に係る課題です。残念ながら、講義内では直接的な説明は行うことはできませんでしたが、本講義は『解説書を参考にしながらでも「建築基準法」を読むことができる』ことを目的の一つにしているため、各自の読み込もうとする姿勢、能力等を図るための課題です。

数値のみの結果では、全問正解者はほぼ無でありましたが、回答に至るまでの姿勢、努力、表現力については大きく個人差が見受けられます。

本講義の目的から、数値結果での評価ではなく、その回答から読み取りできる努力、姿勢、表現力により評価することとします。

【課題1】

【規制概要】



※この範囲の事項

【課題2回答案】（前半部のみ）

検討敷地

法56第1項第一号

「前面道路の反対側の境界線」

「 」

「 」

別表3

(い) 建築物がある地域、地区又は区域
問題文より 近隣商業地域

(ろ) 第52条第1項、第2項、第7項及び第9項の規定による容積率の限度
法52条2項()内

前面道路幅員8m 6m

8m

法52条1項 法52条2項

$\min(40/10, 8 \times 6/10 = 48/10) = 40/10$

40/10

容積率限度

(は) 距離

20m

(に) 数値

1.5

考慮せず

法56第2項

※問題文設定条件「建物廻りには門塀等はないものとする」に係る検討

前面道路の境界線から後退した建築物
令130の12

前面道路の境界線から後退した建築物とは

「前面道路の反対側の境界線」→

前面道路の反対側の境界線から当該建築物の境界距離に相当する距離だけ外側の線

法56第6項

建築物の敷地が2以上の道路に接する場合、

令132第1項

(a) 幅員の最大な前面道路との境界線からの水平距離がその前面道路の幅員の2倍以内かつ35m以内の区域
幅員の最大な前面道路 西側道路

その前面道路の幅員の2倍以内かつ35m

$8\text{M} \times 2 = 16\text{m}$

$\min(16\text{m}, 35\text{m}) = 16\text{m}$

イ-(a)

(b) 前面道路の中心線からの水平距離10mを超える区域

敷地一部について北側道路からの規制あり

イ-(b)

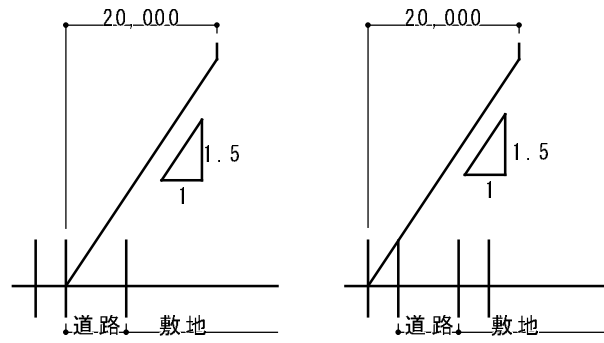
令132第2項

該当なし

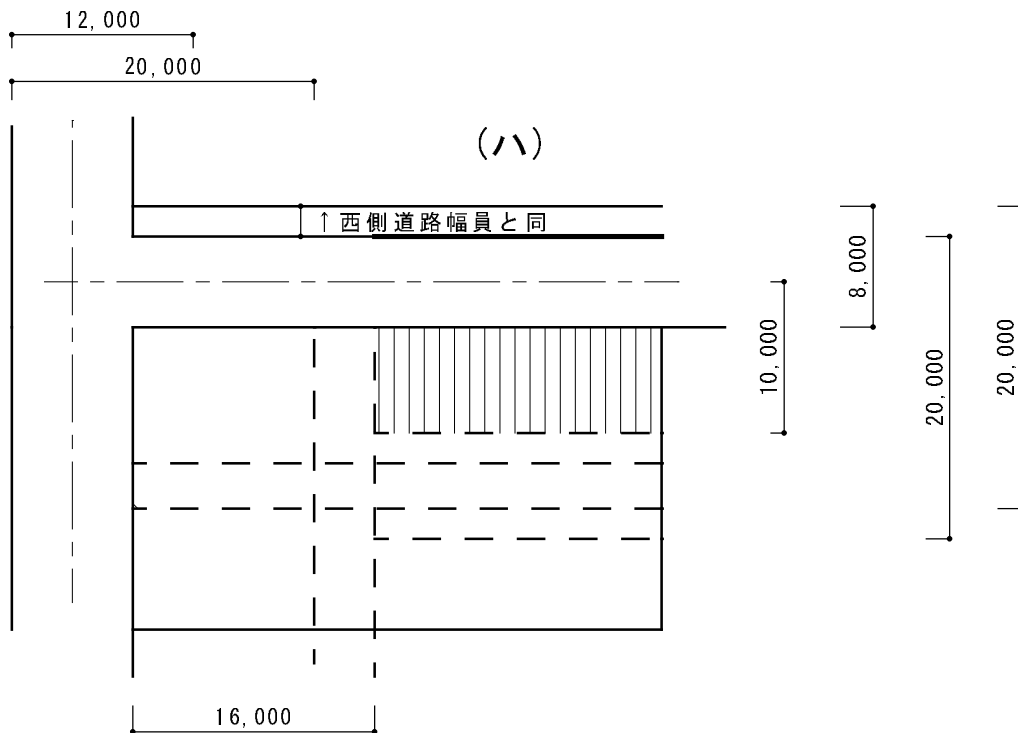
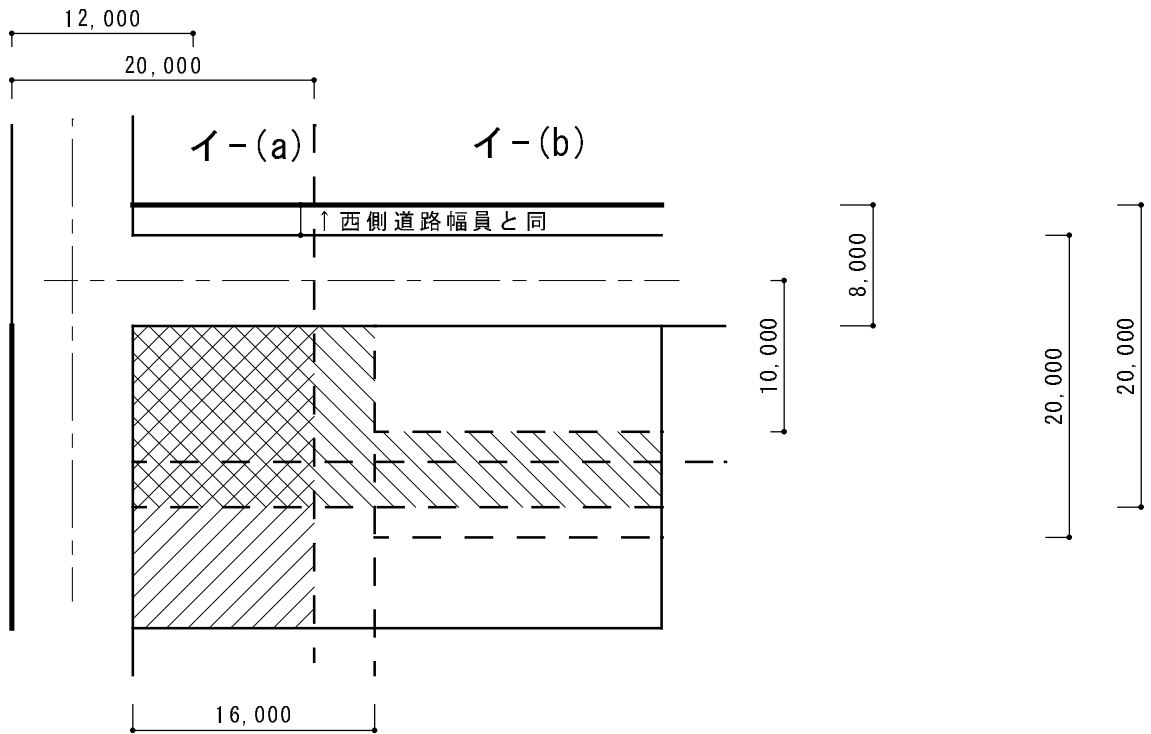
令132第3項

敷地一部について北側道路からの規制あり

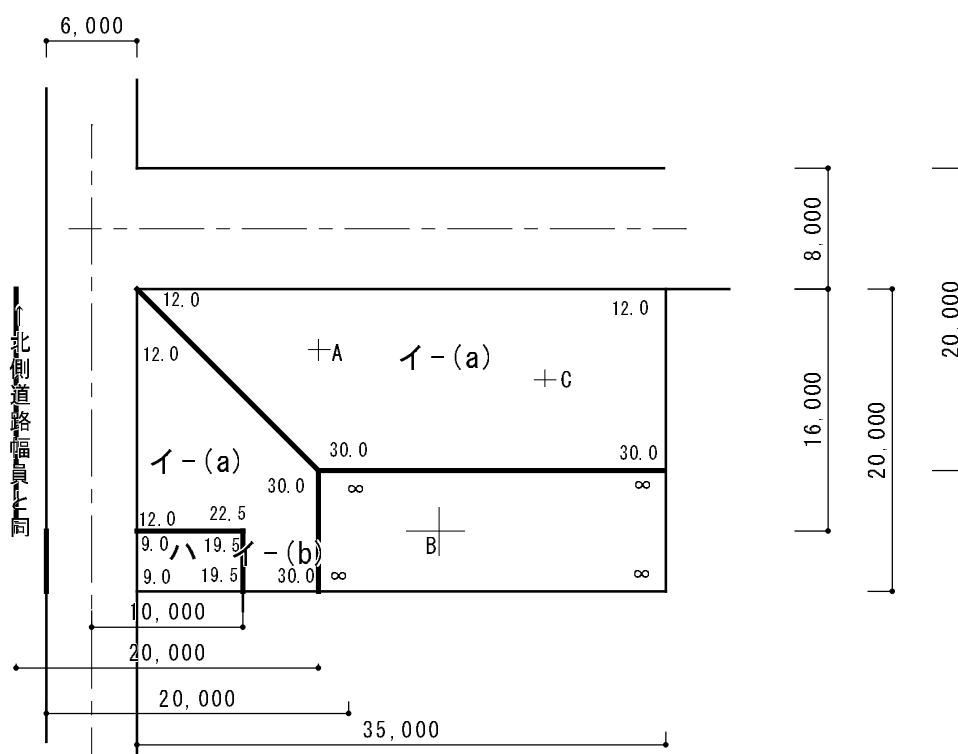
ハ



イ - (a)



【北側道路幅員と西側道路幅員を入れ替えた場合】



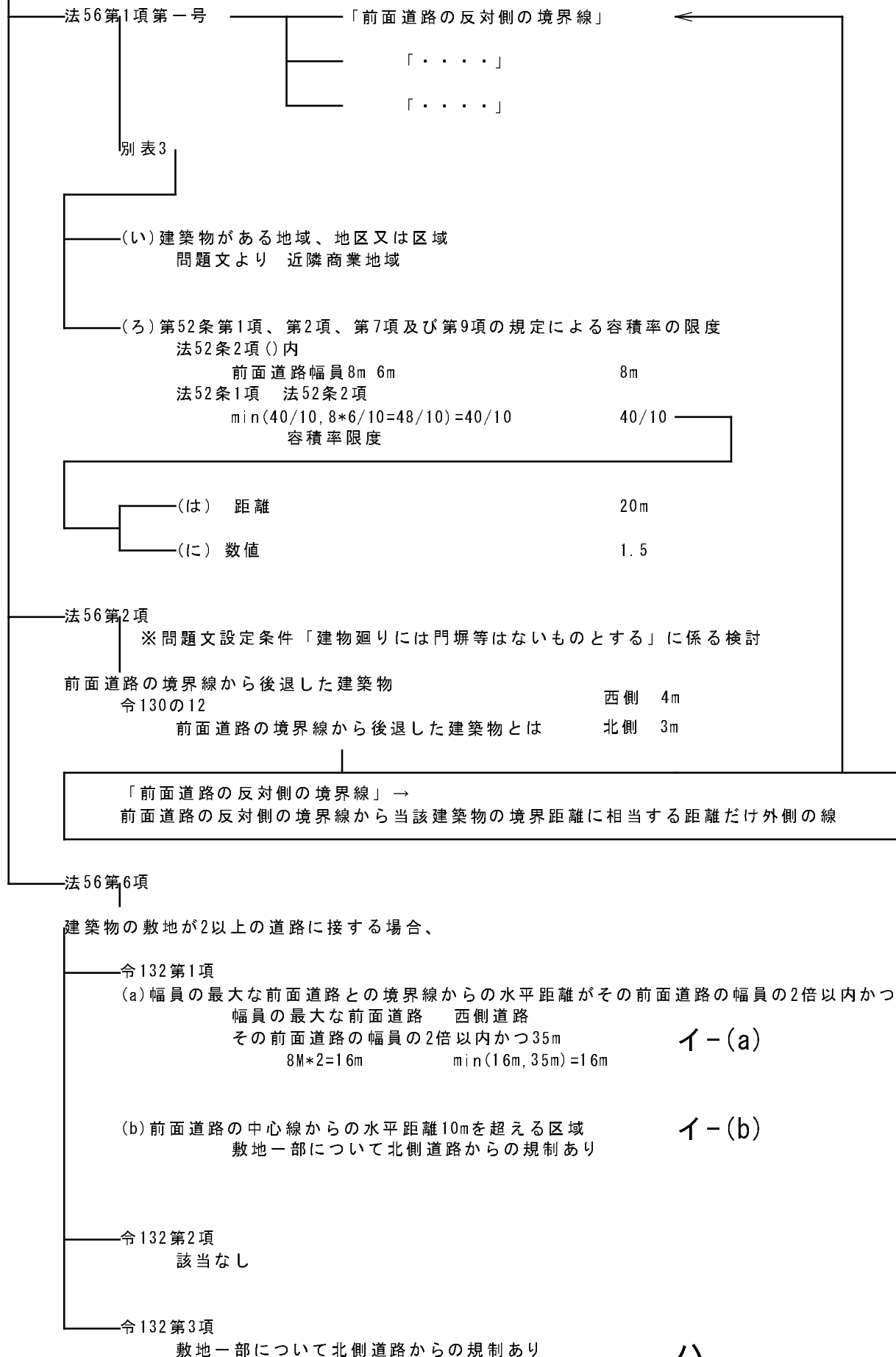
A $(8+4) \times 1.5 = 18.0$

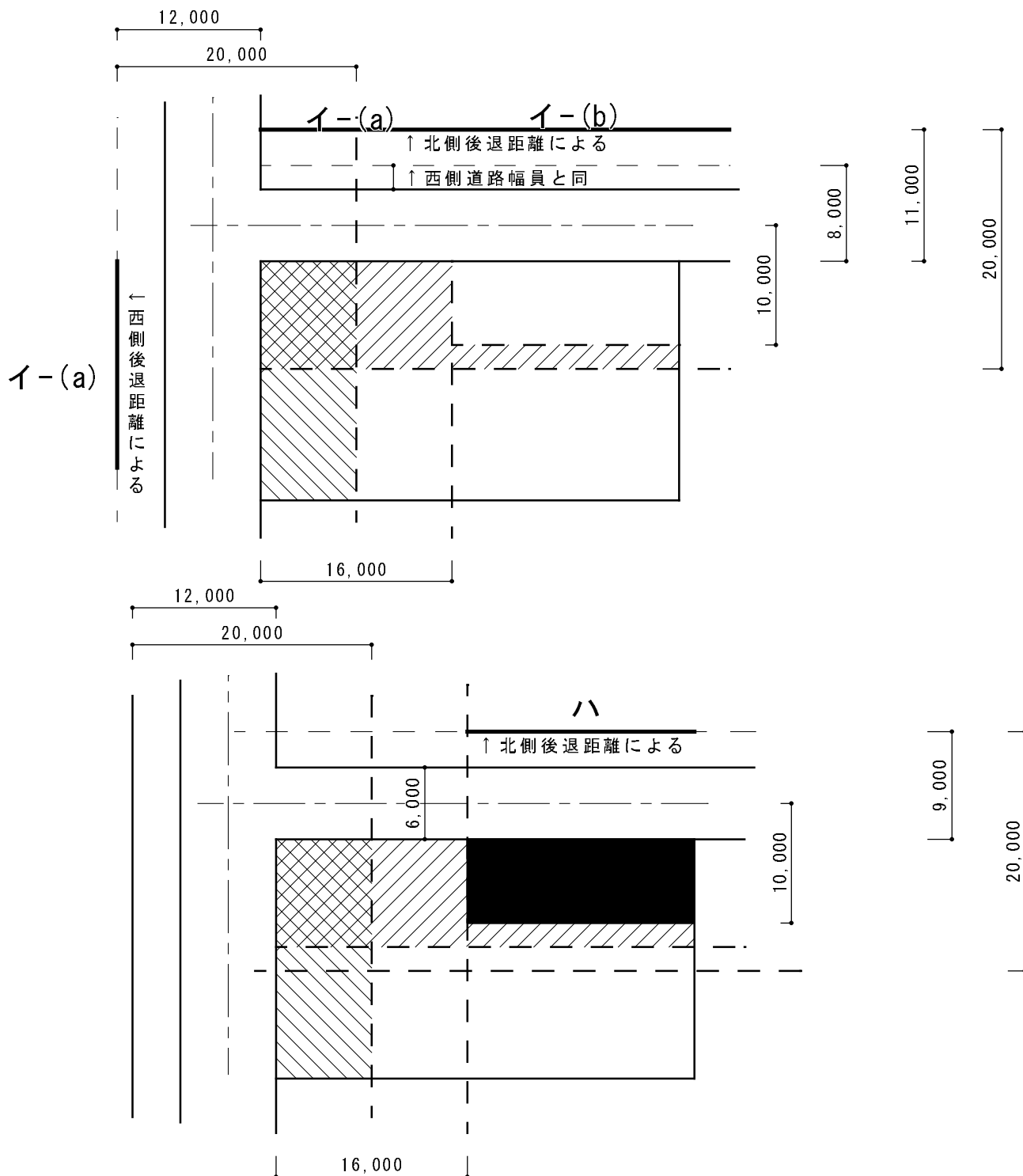
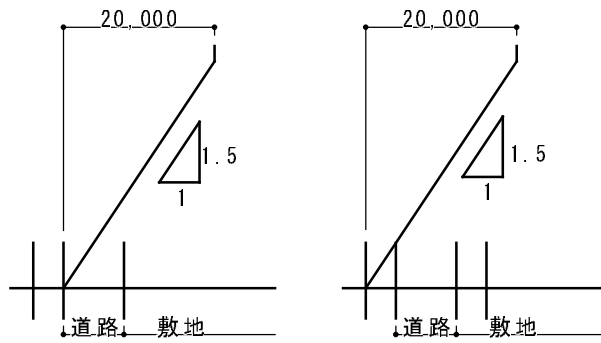
B ∞

C $(8+6) \times 1.5 = 21.0$

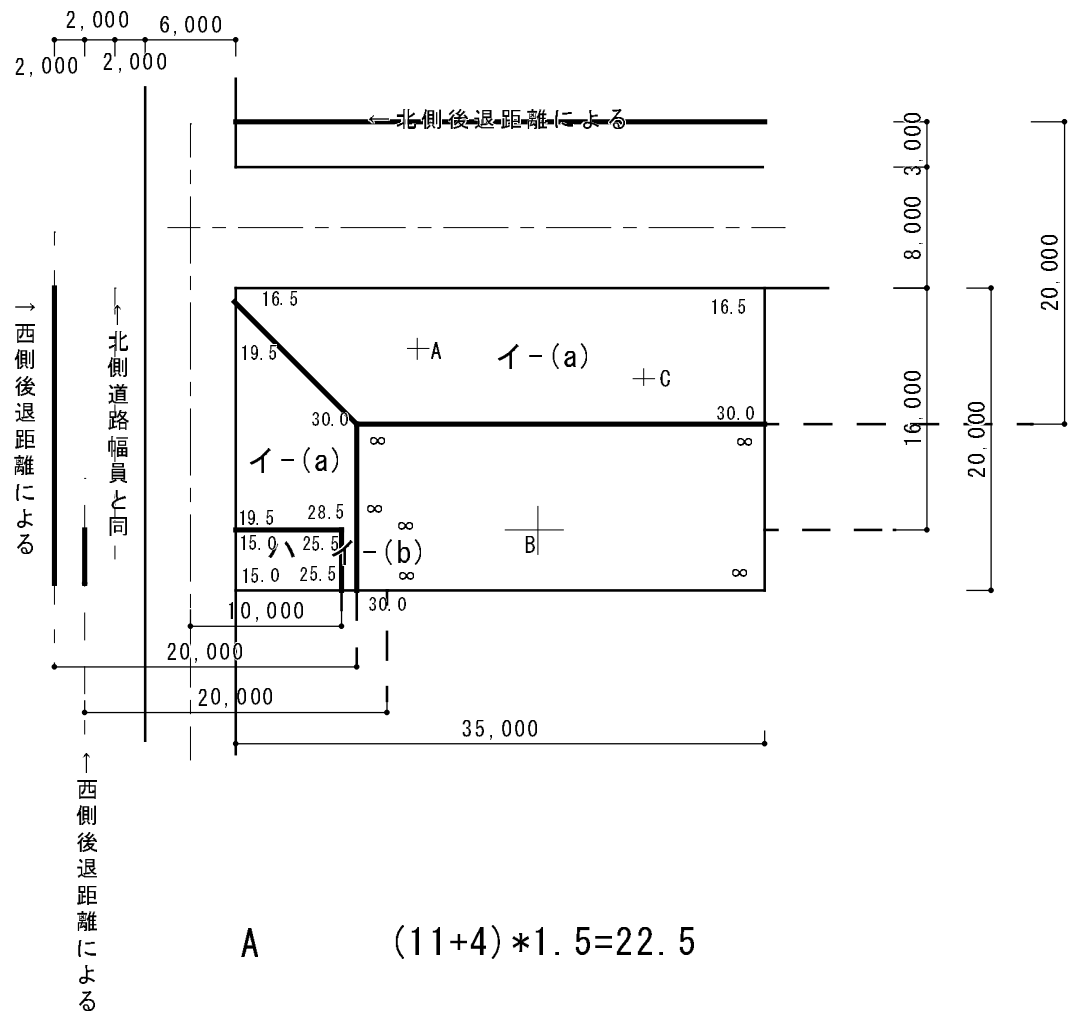
【課題2回答案】（前半部のみ）

検討敷地





【北側道路幅員と西側道路幅員を入れ替えた場合】



A $(11+4) * 1.5 = 22.5$

B ∞

C $(11+6) * 1.5 = 25.5$